

Medical News

2016年12月  
Vol.114

Shinko  
Hospital

Contents

- \*特集：乳腺科  
「乳がんの現状と取り巻く話題」
- \*感染症科医のつぶやき
- \*開業医探訪  
「うすき内科・循環器科」
- \*Information  
・新入職医師のご紹介  
・講演会のご案内  
「神戸医科歯科連携セミナー」  
・地域医療連携センターのご案内

神鋼記念病院理念

公益性を重んじ、質の高い医療を通して、皆様に愛される病院を目指します。

基本方針

1. 快適な医療環境と医療設備を整え、安全で質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの人格や価値観を尊重し、プライバシーを守ることを約束します。
3. 断らない救急医療を目指し、地域社会の信頼と期待に応えます。
4. 地域の医療機関や行政との連携を密にし、切れ目のない医療サービスの提供に努めます。
5. 高い医療技術を持った人間性豊かなスタッフを育成します。

社会医療法人神鋼記念会  
神鋼記念病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町 1-4-47  
TEL: 078-261-6711 (代表)  
FAX: 078-261-6726  
URL: <http://www.shinkohp.or.jp/>  
発行責任者：理事長 山本 正之  
編集責任者：神鋼記念病院広報委員長 山神 和彦

講演会などの  
詳しい情報はこちらから!!

神鋼記念病院 検索  
<http://www.shinkohp.or.jp/>

神鋼記念病院  
Medical News  
2016  
12

乳がんの現状と  
取り巻く話題

乳腺センター長 山神 和彦

平成11年京都大学大学院を卒業。京都大学医学博士、京都大学医学部非常勤講師、日本乳癌学会専門医・評議員、日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、マンモグラフィ読影認定医、日本臨床腫瘍学会認定指導医、日本癌治療認定医機構認定教育医などの資格を持つ。

Info  
2

神戸医科歯科連携セミナー

- ◆ 日時：2016年12月8日(木) 19時00分～20時00分
- ◆ 場所：神鋼記念病院 呼吸器センター5階 大会議室  
(神戸市中央区脇浜町 1-4-47 TEL: 078-261-6711)
- ◆ 講演1：「市中病院における医科歯科連携の実際～乳癌薬物療法を中心に～」  
演者：大和高田市立病院 外科 院長 岡村 隆仁 先生
- ◆ 講演2：「大和高田市立病院における大和高田市歯科医師会との連携」  
演者：やまもと歯科 院長 山本 伸介 先生
- ◆ その他：・日本医師会生涯教育認定講座 1単位申請  
・軽食をご用意させて頂いております
- ◆ お問合せ先：神鋼記念病院地域医療連携センター  
担当：浅田 TEL: 078-261-6711

Info  
3

地域医療連携センターのご案内

受診および検査予約のご依頼は『地域医療連携センター 地域医療連携室』をご利用ください。事前にご予約いただくことにより、当日スムーズに診療が受けられるよう手続きさせていただきます。地域医療連携室まで、電話またはFAXにてお問い合わせください。

■ 外来予約・検査予約・各種問合せ

TEL: 078-261-6739 (直通)  
FAX: 078-261-6728  
受付時間：月～金曜日 8時30分～19時00分  
土曜日 8時30分～12時00分  
※ 時間外は078-261-6711〔代表〕までお問合せ下さい。

■ 救急受診・転入院問合せ

TEL: 078-261-6927 (直通)  
FAX: 078-261-6728  
受付時間：月～金曜日 8時30分～17時00分  
※ 時間外は078-261-6711〔代表〕までお問合せ下さい。

日本における乳がんの現状

今年も10月のピンクリボン運動月間が終了しました。乳がんの早期発見、早期治療の重要性、そのための検診や月に一度のセルフチェックの必要性が再認識されたと思います。体表にできる腫瘍は自身で気づく事が可能で、腫瘍の自覚で医療機関を受診される場合が最も多くなっています。閉経前の方は生理が終わったあと4～5日目に、閉経後の方は毎月、日を決めて自己検診される事が推奨されています(図1)。

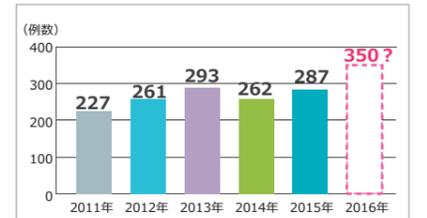
日本人女性のがんで最も罹患率が高い乳がんは、40年前に比して約4倍の罹患率となっており、女性11名に1人が乳がん罹患すると算定されます。2016年の乳がん予測罹患数は9万人(女性で1番目)、予測死亡数は1万4千名(女性で5番目：国立がん研究センターがん対策情報センター)となっており、年次推移は一貫として増加しています。当院乳腺センターでの乳がん手術件数も増加しており、

2016年は350例以上の手術数と推定されます(グラフ1)。

乳がんの罹患率は30歳代から増加しはじめ、40歳代後半から50歳代前半でピークを迎え、その後は次第に減少します。30代、40代は妊娠、出産そして仕事もより責任を伴う立場に移行します。欧米に比して若年者乳がんの割合が高い本邦では、患者さん個々の私生活、社会的背景を考慮した、より慎重な対応をとる必要があります。

妊娠関連乳がん

妊娠・出産・授乳時の乳がんの予後がマスコミにて注目されています。妊娠関連乳がんは、発症時期により妊娠期乳がん(妊娠中から出産まで)と授乳期乳がん(授乳中)に分けられます。妊娠関連乳がんは、妊娠中から出産まで(妊娠期乳がん)と授乳中(授乳期乳がん)に診断された乳がんとして定義しています。出産年齢の高齢化により、その頻度は徐々に増加傾向です。



グラフ1 神鋼記念病院乳腺センターにおける過去5年間の乳がん手術件数と2016年の推計

向です。これら妊娠関連乳がんは進行した状態で診断されることが多いため、古くから予後不良であると考えられてきました。しかし、年齢、進行度を妊娠と関連のない乳がんと比較した場合、妊娠関連乳がんの予後は必ずしも不良とはいえないとする報告も散見されます。

乳癌診療ガイドライン(疫学・診断編 2015年版(日本乳癌学会))によれば、2012年のメタアナリシス(1)にて妊娠期乳がんは予後不良とは結論付けられませんが、授乳期乳がんの予後は不良である事はほぼ確実であるとの見解です。実地臨床においても、授乳期乳がんの診断は極端に遅れることがあり、これが予後不良の一因と考えられています。同学会では、できるだけ早い段階で乳がんを診断できるように、乳房の変化を観察する事の重要性を

入浴時にチェック

指をそろえて、指の腹で軽く押さえながら、ていねいに渦巻き状に何回も乳房にしこりがなく調べます。



鏡に向かってチェック

1. 鏡の前に自然な状態で立ち、両方の乳房に違和感がないかよく観察します。
2. 両手を上下し、正面・側面・斜めなどから乳房をよく観察します



仰向けに寝てチェック

1. 乳房の内側  
腕をあげ、指の腹でていねいに調べます。
2. 乳房の外側半分  
腕を自然な位置に下げ、指の腹でまんべんなく調べます。
3. わきの下  
わきの下にはリンパ節腫脹が起きる可能性があります。しこりがなければ左右のわきの下を調べます。
4. 乳頭  
乳頭を軽くつまみ、血のような分泌液がでないか調べます。

チェックポイント

- ・乳房の形、大きさ、高さに違いがあるか
- ・乳房の皮膚の一部や乳頭にへこみ、ひきつれはないか
- ・乳頭にかさぶたやただれがないか
- ・乳頭に異常な分泌液がでていないか

図1 乳がん自己検診方法

産婦人科医や助産師に提示し、連携を深めていくとのコメントも記されています。

## 乳がん治療と妊孕性

かつては、妊娠が乳がんの再発の危険性を増加させると考えられており、治療後であっても妊娠はあきらめるべきだとする風潮がありました。しかし、さまざまな研究から必ずしも正しくない事が判ってきました。

本邦では欧米に比して、40歳以下の乳がん患者が多い事(2014年日本乳癌学会登録人数:20~39歳は4,192名)、出産年齢が高齢化している事、これらの要因により、挙児希望の乳がん患者さんが増加しています。仮に患者さんが35歳で発症の場合、従来は5年間の治療後の妊娠が推奨されていました。妊娠可能は40歳以降となり、妊娠、出産に不利な年齢となります。患者さんのための乳癌診療ガイドライン(2016年版(日本乳癌学会))では、「再発する多くの方が術後2~3年以内にみられることから、少なくとも術後2年間は妊娠を避けた方がよいかもしれません。」との記載に変更されています。

また、この間に化学療法が施行されていた場合は、原始卵母細胞の減少に伴い閉経に誘導される危険性もあります。特に乳がんでは、卵巣機能の障害を引き起こす可能性のある代表的な抗がん剤シクロホスファミドを投与する 경우가多く、妊孕性温存が問題となります。生殖医療機関と連携し化学療法前の卵子、卵巣、受精

卵の凍結保存、治療後の体外受精、顕微授精等の生殖補助医療を検討する事が提唱されています。

当センターは2016年2月26日に神戸乳腺チーム医療の会(テーマは若年性乳がん患者の妊孕性温存)を企画しました。英ウイメンズクリニック部長 岡本恵理先生には「不妊治療の実際~高度生殖補助医療を中心に」、聖マリアンナ医科大学 婦人科学教授 鈴木直先生には「若年性乳がん患者における妊孕性温存の診療~がん・生殖医療の実践をめざして」について講演をして頂きました。関心が高い分野で、兵庫県下の乳腺科、産婦人科、腫瘍内科の先生62名とコメディカルの方73名が参加され活発な討議が展開されました。

## 乳がんサバイバーと就労支援

乳がん患者さんの5年生存率は90%を超えており、標準的な治療により予後が見込まれる疾患です。さらに、本邦では40歳代、50歳代が多く生産年齢人口(15~60歳)の方が多く事になります。また、日本の社会構造としては、高齢化に伴う労働力の不足による労働者の確保が喫緊の問題で、平成24年第2次がん対策推進基本計画では「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」が提唱されています。医療機関、産業医を含む企業、地域にて就労支援を行うことが重要で(図2)。

当センターでは、「神鋼リボンの会(乳が

ん患者さんの会)」を半年に1度開催しています。2016年10月22日に産業医科大学実務研修センター講師立石清一郎先生に「乳がんと仕事の支援」のご講演をお願いしました。患者さんから「もっと、以前から知りたかった」等の好評を得ました。さらに、11月13日に私達も兵庫県医師会主催の平成28年度第2回産業医研修会(姫路商工会議所大ホール)にて「産業医に必要な乳癌治療の現状と労働支援の知識」を講演しました。この分野は近年、注目されている分野で、私達も積極的に対応していきたいと考えています。

## 乳腺センターの実績と今後の展望

当院乳腺科は2005年に創設、2015年までの11年間の乳がん手術は2,346名に至りました。2008年よりチーム医療の重要性に取り組み、乳腺センターを開設しました。当センター内には、乳房超音波検査に特化した乳腺エコー室、乳房MRI画像診断を得意とする画像診断科、乳房再建の豊富な経験をもつ形成外科を組み入れています。

さらに、ステレオガイド下マンモトーム生検等の乳がん診断を行う設備の充実、当センターが長年取り組んできた「ICG蛍光法によるセンチネルリンパ節生検」が乳癌診療ガイドライン(治療編2015年)で推奨されるなど、当センターを取り巻く環境はますます進化し、本邦のみならず国際的にも認知されてきました(当センターにて行われている乳房再建、ICG蛍光法が、2016年11月6日(読売新聞)、19日(神戸新聞)に掲載されました)。

2017年の取り組みとして、①手術や化学療法時の合併症、副作用軽減のための口腔ケア(神戸市歯科医師会を介した医科歯科連携)、②遺伝カウンセラーをチームに入れた遺伝性乳がんの対策を準備しています。

2016年は約350症例の乳がん手術を推定しております。地域に貢献できる乳腺センターをめざし、さらに多くの患者さんに受診していただくためには、乳腺外科医、超音波検査技師の増員が課題となっています。現在、前述の方々の募集を行っています。豊富な症例を背景に、最先端の経験を十分できる環境です。宜しくご高配お願い申し上げます。

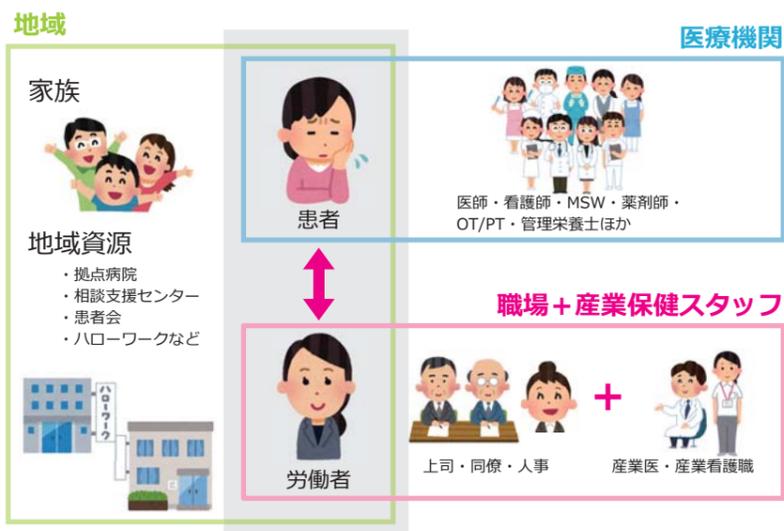


図2 がん患者就労支援図

## Infectious Disease Vol. 17 感染症科医のつづやき

### 【ルーチンの問診で診断できるのか?】

前は、『なぜやらないといけないか』を理解せずに問診・身体診察・検査をしても、正しい診断につながらないことが多い」とお話ししました。本当にそうなのでしょう。まずは問診を例に挙げて検証してみましょう。

猫ひっかき病という病気があります。これは猫や犬にひっかかれたり噛まれたりして感染する病気で、不明熱の原因となります。したがって、発熱患者さんが猫や犬と触れ合うことがなかったのであれば、猫ひっかき病の可能性は除外できます。

診断学の教科書には「不明熱の患者さんには『ペットを飼っているかどうか』という質問をするように」と書かれています。では、この質問に対して患者さんが「飼っていない」と回答した場合、猫ひっかき病の可能性は除外で

きるでしょうか?

実はできないのです。患者さんがペットを飼っていない、野良猫や野良犬、友人や親戚の飼っている猫や犬を患者さんが触っていたかもしれないからです。さらに言えば、この病気には7~60日の潜伏期があります。発熱時や受診時にペットを飼っていないでも除外できないのです。

「ハンカチ持った? ちり紙は?」のように「ペット飼っている? 生もの食べた?」と通り一遍の問診を機械的にやっているだけでは正しい診断につながりません。『なぜその質問をしなければならないか(=その質問は鑑別診断の絞り込みにどのように役立つか)』を理解した上で、問診する必要があります。

## 開業医探訪

inquires into a doctor

Vol.30

【内科・循環器科】

## うすき内科・循環器科

皆様に支えられ、開業医探訪も30回を迎えました。今回は中央区野崎通にあります「うすき内科・循環器科」を訪問致しました。

### ■ 診療を開始されてどれくらいになりますか?

私は淡路島に生まれ神戸で育ちました。循環器内科医としての勤務を経て、2005年に開業し、今年で12年目に入りました。

### ■ どのような患者さんが来院されますか?

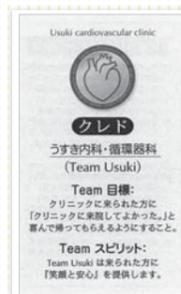
当院の評判を聞かれた近隣の患者さんが来院されます。また、前任の病院で担当していた方が、揖保郡や加東市から来ていただいています。開業して10年以上経過していることもあり、開院時から来院頂いている方も年を重ねられ、ご高齢の方が多くなっているという印象があります。

### ■ 診療にあたり心掛けていることは何ですか?

開業してから、患者さんからの訴えを聴くなかで、東洋医学の重要性を感じるようになりました。そして漢方を学ぶようになり、2010年に日本東洋医学会認定漢方専門医を取得致しました。現在では、症状や状況に応じて西洋医学と併用しながら患者さん一人ひとりに合った診療するように心がけています。

### ■ ひとこと

当院独自にクレド(ラテン語:信条)を作成し、毎朝8時にスタッフとともに目標や行動方針などを読むようにしています。日々、全職員と同じ志を共有することで、患者さんに「受診してよかった」と思ってもらえるような医療を提供できるように努めていきたいです。また、診療にあたっては自身の体調管理には常に気をつけていきたいと考えています。



## information

- 神戸市中央区野崎通3丁目3-27
- TEL: 078-271-1192
- 診療科: 内科・循環器科
- 休診日: 木曜日・土曜午後・日祝日
- 診療時間

	月	火	水	木	金	土
8:30~12:00	○	○	○	×	○	○
16:00~18:30	○	○	○	×	○	×

